

## 中国歴史班

## 碑文からみた、人々の水資源利用、環境保護の観念について

立石謙次（国土館大学）

キーワード：水資源、環境保護、碑文

The Use of Water Resources and the Concept of Environmental Protection from Inscriptions

TATEISHI, Kenji(Kokushikan University)

Keyword: Water Resources, Environmental Protection, Inscription

## 要約

本報告で紹介する「清理鄭營民水碑記」、「水溝碑」は、雲南地方の人々がどのように、農業用水を分配してきたかという水利にかかわる碑文である。従来、水利にかかわる碑刻史料は、主にその土地で、どのような水利慣行が行われていたかという問題について、多く法制史の立場から考察されてきた。しかし、一方で水利にかかわる碑刻史料の多くには、農業用水分配にいたる、経緯、方法そして彼らが自然資源をどのように利用してきたかという問題についても記されている。これまで、本調査で収集されてきた碑刻史料は、その内容が今回初めて明らかになったものも多い。このため、これら碑刻史料に対する考察は、人々が自然資源をどのように利用してきたかという生態史上において、新たな知見を与えると考えられる。

## 1. はじめに

石碑は、中国の地域社会において、土地利用、水源確保などに関する紛争を防ぐよりどころのひとつとなっており、それは、その時代、その場所である問題が発生、あるいは起きようとしているとき立てられる。その意味において、これら碑刻史料は当時の歴史的状況をよく反映している。

本報告で問題とする水利碑は、その名称のとおり、人々が公共資源である水資源を以下に分配するのかという水利慣行、そしてどのように森林資源を保護したかということに関して記されている。ところで、従来このような問題について、法制史の立場から研究が行われてきた。しかし、これら石碑の価値は、法制史からの立場からにとどまらない。それは、これら碑文には、現地の人々が問題としている当時の環境に関する事件について書かれているからである。

また、これら石碑の記述は、従来史料としてみなされることがなかった。さらにいえば、このような碑文に見られる内容は、現地の知識人や官僚の手による歴代の地方志に載せられることはない。このため、これは碑刻史料を環境史の立場から、再検討していくことは非常に意義がある。

## 2. 水利碑からみた自然観

## [1] 水利慣行と共同体による水資源の共有 「清理鄭營民水碑記」

上述したように、水利慣行が記される水利碑は法制史の関連から研究が行われてきた。ただし、水資源をいかに確保し、いかに分配するかという問題についていえば、これらはそれぞれの地域における生態環境の変化、およびそれぞれの民族の自然観に根ざしていると考えられる。

たとえば、石屏県宝秀鎮鄭營村で発見された「清理鄭營民水碑記」には、同地域での具体的な水資源の分配の状況のみならず、分配に至るまでの経緯・過程が詳細に記されている。

この『清理鄭營民水碑記』によれば、水資源を「份」という単位に分けて、村の構成員に分配していた。この分配方法については、中国の伝統的な分配方法である。同地域では、従来から伝統的な中国の方法に基づいて水資源を分配していた。ところが、その水資源分配の権利である「份」の分配状況時代が経るにつれが混乱していった。

たとえば、相続の際に「份」が兄弟の数だけ不当に増加されて分配された。また、借金の抵当として、負債者が「份」を貸主に、譲ったにもかかわらず、そのまま負債者が水資源を利用しける。そして貸主も負債者が借金を返済したにもかかわらず水を利用し続けるという状況が出現した。このため、本来の水資源の要領を上回る水量が使用されることになった。ここで、同地域の顔役たちが自発的に、水資源を再分配し、この分配を明記したのが同碑である。

このように同碑からは、水資源利用に破綻をきたした際、共同体の中で自発的に水資源を再分配、整理していきこうという動きが見られる。これは、官側が作る地方志などにはまず記載されることのない情報である。

## [2] 碑文に見られる自然景観・生態環境の変化 - 「水溝碑」を例に

また、元陽県戛娘郷の糯咱村で発見された「水溝碑」(原碑に題名なし、碑名は報告者が仮につける)には、龍坎、糯咱、繳緬という三村が、共同で資金と労働力を出しあい、水田に農業用水を引くための水路を開いた状況及びその後の共同管理に関する情報が記されている。

同地域は、現在棚田が広がる地域であるものの、同碑文によれば同地には本等水田がなかったと述べている。このように、同地の用水路の開通を契機に、この地域ではそれまでの自然景観および生業形態も一変したと考えられる。ただし同碑文には、彼らがどのような経緯で、どのようにその資金・労働力を集め、そしてどのように自然を作り変え、それをどのような方法で保護しようとしたのかということが記されている。

「水溝碑」の内容は、それほど多くの内容を記しているわけではない。しかし、同碑の内容は、現在の元陽県に広がる棚田、ひいてはその背後に広がる水源である森林が歴史的にどのように利用され続けてきたかということについて新たな知見を与えると考えられる。さらに、現在の自然資源の利用方法とそれ以前の方法とが、歴史的にどのような関係を持っているのかという問題について重要な情報を備えている。

## 3. おわりに

以上述べたように、従来水利にかかわる碑刻史料は、主にその土地で、どのような水利慣行が行われていたかという問題について、多く法制史の立場から考察されてきた。しかし、一方で水利にかかわる碑刻史料の多くには、農業用水分配にいたる、経緯、方法そして彼らが自然資源をどのように利用してきたかという問題についても記されている。これまで、本調査で収集されてきた碑刻史料は、その内容が今回初めて明らかになったものも多い。このため、これら碑刻史料に対する考察は、人々が自然資源をどのように利用してきたかという生態史上において、新たな知見を与えることは間違いない。

## Synopsis

This article introduces inscriptions that explain the situation concerning the distribution of water for agricultural use in Yunnan province. In the past, such inscriptions about irrigation practices have mostly been studied from the perspective of legal history. This article shows that many of them record the methods of distributing agricultural water and how people used natural resources, and are important for the history of the environment.